



ユニカールの競技で得点を競う参加者。ストーンをはじいたり、はじかれたりと互いに譲らぬ熱戦を繰り広げました

第20回花巻市民ユニスポーツ交流大会は2月15日、総合体育館で開かれました。運動不足になりがちな成人の体力づくりと健康増進を目的に開催されているもので、市民約240人が参加。羽根の付いたボールを手で打ち合う「インディアアカ」や、長いついで円盤を押し出し得点棒を狙う「シヤフルボード」など、6種目で爽やかな汗を流しました。ストーンを滑らせ得点を競う「ユニカール」では、試合を有利に進めるために、真剣な表情で狙いを定めていました。

ユニスポーツで体力づくり



お目当ての鍋料理を買い求める来場者の皆さん。熱々の鍋料理の食べ比べを楽しみました

酒蔵まつり冬の陣「鍋まつりN-1グランプリ」は2月22日、ビバハウスいしどりやで開かれました。自慢の鍋料理を食べ比べる同イベントには、市内外の飲食店など12店が出店。まぐろ鍋、ホルモン鍋、牛すじ煮込み鍋、ひつつみ鍋、いわしつみれ鍋などバラエティーに富んだ熱々の鍋料理に会場を訪れた約1000人が舌鼓を打ちました。投票の結果、グランプリに輝いたのは地元のおいしどりや懐石新亀家の「新亀鍋」。自慢の味が来場者のおなかを満たしました。

自慢の鍋に舌鼓



出演者全員が勢ぞろいしたエンディング。ダンスと合唱で終幕を飾りました

花巻市民劇場「賢治さんからの謎かけカトジとタカシの推理帖―HELL(地獄)からLOVE(愛)へ―」は、2月21日と22日の両日、文化会館で上演されました。賢治の詩「オホーソク挽歌」に秘められた思いを探る物語。上ノ山鹿踊りが演舞したり、花巻農業高校応援委員会が賢治作詞の応援歌を歌ったりと、多彩な顔触れで舞台を盛り上げました。2日間で716人が来場。ぴったりと息の合った演技に、会場から惜しみない拍手が送られていました。

賢治の詩に秘めた思いを謎解く



1 おおはさま宿場の雛まつりで商店に飾られたひな人形に見入る親子 2 同まつり最終日には「宿場のちんどん屋 早池峰一座」と大船渡の「チンドン寺町一座」が共演 3 4 色とりどりのつるし雛が並んだ八日市つるし雛まつり 5 ブドリ舎で開かれたミニコンサートで歌声を響かせた子どもたち



華やかに春の訪れ 市内各地でひなまつり開催

2月から3月にかけて、市内各地で「ひなまつり」が開かれ、まちが華やかに彩られました。おおはさま宿場の雛まつり(2月19日〜3月3日)では、大迫交流活性化センターをはじめ商店など23カ所に、歴史雛や現代雛がずらりと並び、来場した多くの市民や観光客を魅了。地元有志によって結成された「宿場のちんどん屋 早池峰一座」も登場し、まつりを盛り上げました。八日市いきいき交流館で開かれた八日市つるし雛まつり(2月13日〜3月3日)にも、家族連れなど大勢が来場。手作りのぬくもりを感じながら、子どもたちの幸せを願うつるし雛に見入っていました。花巻人形雛まつり展(2月21日〜3月3日)が開催されていた矢沢のブドリ舎では、ひな祭ミニコンサート(2月28日)も行われ、イーハートブ子ども合唱隊に所属する子どもたちがかわいらしい歌声を披露。会場は春を感じさせる温かな雰囲気になりました。



蘇民袋を激しく奪い合う男衆。境内は熱気にあふれました

蘇民袋、雄々しい争奪戦

石鳥谷町五大堂の光勝寺で2月25日、五尊蘇民袋が行われ、下帯姿などの男衆が無病息災や五穀豊穡を願い、蘇民袋を奪い合いました。800年以上続く同祭の蘇民袋の争奪戦には約20人が参加。「ジャッソー」と掛け声を上げながら、約1時間にわたり激しいもみ合いを繰り広げました。取り主となった伊藤吉春さん(宇都宮市)は「こしは厄年だが、取り主になれたことで厄が落ちた。いい年にしたい」と、一年の幸せを願っていました。